

## 開 会 あ い さ つ

石神兼文（鹿児島大学長）

鹿児島大学の学長の石神でございます。本日、鹿児島大学の南方海域研究センターと日本鉱山地質学会金銀鉱床と地熱系研究委員会の共催により、「古地熱系と活地熱系」のシンポジウムが、鹿児島大学において開かれることになりましたことは、大学にとってまことに意義ある企てであり、ご同慶に堪えません。

今回のシンポジウムは、本学の浦島教授がかねて研究企画しておられたことでありまして、本学以外に、九州大学から、また、九州大学の生産科学研究所、また、新エネルギー財団の地熱本部、また、琉球大学、それから、県の商工労働部から、というふうに、遠くから、また、学外から、いろいろな研究者の方々が参加しておられます。しかも、南方海域研究センターのシンポジウムとしては、今回が第9回になるわけでありまして、こういう意味において、今回のシンポジウムがここに開かれますことは非常に意義のあることだと思っております。

私は全く専門外でありますので、私が申し上げますことは科学的には的が外れているかも知りませんが、かねて私が思っておりますことは、人間がこの地球上で生活し、いろいろなエネルギーを人間が使っておりますけれども、そのエネルギーは、地球の外、太陽から来る光と熱というエネルギーと、それから、我々が住んでおります地球自体のもっておところのエネルギーと、その二つのものがあり、そうして、その二つのエネルギーが互いに関連しあって、地球というものの形成にあたっており、また、われわれ人間がそれによって生活しているものでないかと思っております。

地球自体のもっているエネルギーにつきましては、これは地球発生のときから、いろいろな変遷を経ながら、それが継続していることと思っておりますけれども、これはわれわれ人間の歴史からみますと、到底考えられない程非常に長い時間を経てできていると思っております。そして現在、われわれは、そのエネルギーというものを、われわれの生活にいろいろな形で利用しています。ただ、今までは、非常に使いやすい、人間がすぐ利用しやすいそういうエネルギーをさかんに使っているので、資源がもう使いつくされそうだと心配をする人がありますけれども、しかしながら、地球がもっているところのエネルギーというものは、まだ、莫大な、あるいは、無限なものがあるのではないかと、思っております。これは、私の文学的な見方かもしれませんが、そういうように思っております。

本日のこの研究会におきまして、地熱についての研究者の皆様がたが、古地熱系と活地熱系についてのご研究を、とくに、南西諸島から、あるいは、南方地域についてのご研究についての活発なシンポジウムを開いていただきますことは、今後の鹿児島大学の、この分野のみならず他の学問分野においても、その研究推進に資することが大きいものがあると思っております。

それから、なお、明日は、菱刈鉱床の見学会も予定されているようでございますが、私自身もぜひ一度いっしょに見学に参加させていただきたいと思っておりましたけれども、今回はやむをえできません。この見学会も有意義なものになりますように、そしてまた、県の産業の面においてでもなんらかの推進になればというふうにも思っております。どうぞ本日はよろしく願いいたします。